

「紫波町子どもの育ちに関する親子調査」の結果について

1. 調査名

紫波町子どもの育ちに関する親子調査

2. 目的

平成 28 年度の児童生徒に係る相談件数は 130 件（行政報告例）であり、貧困が要因と思われる虐待・養育・非行のほか、経済的には問題はないものの親の多忙等による親子の関わり希薄化などが要因と思われるケースも多く見受けられた。子どもたちの心豊かな育ちの実現に、不足しているものは何か、必要な施策は何かを明確にする。

3. 質問項目

《子どもの姿》年長児：好奇心、文字や数字への興味、頑張る力、協調性、自己抑制等

小4・中2：目標・挑戦、自律・行動力、自己抑制、コミュニケーション、自己肯定感、感動体験、自分の親との関係（話を聞いてくれるか、大事に思っているか、励ましてくれるか等）、放課後や休日の過ごし方等

《子どもとの関わり》生活（生活リズム、挨拶、食事等）、学習・体験支援（読み聞かせ、遊び、イベント、季節の行事等）、思考の促し等

《保護者自身のこと》経済状況、保護者の生活・行動（就労状況、学校活動、地域の行事、趣味、今の気持ち、相談相手等）

《子どもについて心配なこと》学力、進路、金銭的な負担、いじめ等

4. 調査対象、回答状況

対象者	発送数	回答数	回答率
年長児保護者	244 通	209 通	85.7%
小学4年生児童・保護者	280 通	265 通	94.6%
中学2年生生徒・保護者	319 通	273 通	85.6%

5. 調査時期 平成 29 年 12 月

6. 調査結果から見る本町の課題

《子どもの姿》

- ・全体的に、苦手なことに取り組んだり、達成しようと努力する力が弱い傾向にある。
- ・小学4年生は比較的安定しているが、中学2年生になると、すべての設問において肯定的な回答が減少。特に、挑戦、行動力、自己抑制に関する回答に大きな開きがある。
- ・「失敗しても達成しようとする姿」、「苦手なことでも努力する姿」は、他の設問においても肯定的な回答が多くみられる。
- ・“中学2年生”の授業で分からないところがある理由は、苦手な教科が多い、勉強する気が起きないという気持ちの面と、授業の内容が難しい、これまで習ったことが分かっていないという授業の基本的な面で高い割合となっている。

「挑戦する」「試行錯誤する」「乗り越える」経験の積み上げが不足していると考えられる。中学2年生は、「課せられて」も、「挑戦する」気持ちも起きない状態にある子どもも多い。

《保護者の関わり方》

- ・子どもと親がじっくり時間をかけて関わる関係づくりが年々難しい状況になっている。
- ・親が子どもの「どうして」や「なぜ」に対応した家庭の子どもは、「挑戦する」「試行錯誤する」「乗り越える」傾向が高くみられる。

子どもが経験値を増やしたり、考えを深めたりする過程には、親が子どもとどう関わっていくか、どう向き合うかなどが重要だと考えられる。しかし、多くの親は子どもとじっくり関わる時間がとれない。

《経済的状况》

- ・町（本調査対象世帯）の相対的貧困率は全国の相対的貧困率よりも低い。
- ・育まれる子どもの姿には、経済状況よりも関わり方による影響が大きいと考えられる。
- ・「子育てがづらい」「楽しくない」の回答者には、経済的に厳しい家庭や身近に相談できる人がいない保護者の割合が大きい。

全体から見ると数は多くないが、子育てに向き合えないでいる保護者がいる。